

科目名		プロジェクト実習 1							年度	2024
英語科目名		Project Practice 1							学期	後期
学科・学年		A I システム科 1 年次	必／選	選	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員		太田晶、小林彰人	教員の実務経験		有	実務経験の職種		システムエンジニア、エンジニア、エンジニア		
【科目の目的】 以下の事項を本科目の目的とする。 ・プロジェクトの全体的なライフサイクルにおいて、要求定義から成果物の提出までの一連の流れを学ぶ ・効果的なプレゼンテーションの方法を習得する ・必要な技術を能動的に学習する姿勢を養う										
【科目の概要】 グループ学習の形式で、実習中心の授業を行う。グループで企画内容をまとめ、最終的には成果物の作成と内容を報告するプレゼンテーションを行う。完成品を作成するまでに、プロトタイプに関する中間発表も実施する。 システム構築は一般的なプロジェクトの工程を経験する。										
【到達目標】 以下の事項を到達目標とする。 ・チームメンバーとの協業により成果物を完成させる ・プロジェクトにおける各フェーズの実践を通じて、プロジェクトマネジメントの基礎を習得する ・成果物の内容や価値を効果的に伝えるプレゼンテーションを実施できるようになる										
【授業の注意点】 本科目はグループ学習の形式をとるため、授業出席、積極性と協調性が重要となることをよく理解して受講すること。また、成果物の完成に必要なスキルを有していない場合は、能動的に学習することも必要となる。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力					
到達目標 A 要件定義の理解と実践	要件を完全に理解し、他のメンバーへの説明や質問も適切に行える	要件をほぼ完全に理解し、関係者とのコミュニケーションも活発	要件の大部分を理解し、少数の質問や確認を行う	要件の一部を理解しているが、全体のイメージが掴めていない	要件の文書を理解していない。質問や議論が全くない					
到達目標 B 設計思考の適用	設計の全工程を効率的に行い、最適化や改善提案も自発的に行える	設計を効果的にを行い、他のメンバーとの協力も適切に行える	設計を行う際の手法やツールを適切に利用できるが、最適化が必要	設計の基本的な手法を知っているが、具体的な適用が難しい	設計の手法やツールの使用が全くできない					
到達目標 C 実装スキルの習得	全ての機能の実装や最適化が高いレベルで行える	コードの質が高く、他のメンバーとの協力も適切に行える	主要な機能の実装はできるが、最適化や効率化が必要	基本的なコードは書けるが、複雑な機能の実装が難しい	コードが書けない、または多数のエラーが存在する					
到達目標 D テスト手法の適用	全てのテストケースに対して効率的にテストを行い、バグを最小化する	テストの自動化や高度なテスト手法を適切に適用できる	多くのテストケースに対してテストを行い、結果を解釈できる	基本的なテストは行えるが、詳細なテストやバグの特定が難しい	テストが全く行えない、またはテスト結果の解釈ができない					
到達目標 E プレゼンテーションスキル	効果的なプレゼンテーションを行い、聞き手の指摘にも対応できる	聞き手を引き込むプレゼンテーションが行える	内容を適切に伝えるプレゼンができるが、改善の余地がある	基本的なプレゼンのスキルは持っているが、効果的な伝達が難しい	プレゼンの内容や構成が不明確で、聞き手に伝わらない					
【教科書】 配布資料										
【参考資料】										
【成績の評価方法・評価基準】 作品の内容や完成度、中間発表や最終発表の内容、グループ作業の状況などを総合的に評価する。 演習のいずれかを記入。										

